

## 上宮寺通信

第六十七号

## 「ぼたもち」あれこれ

今年の冬は暖冬とはいっても、身にこたえるような寒さの日もありました。そんな冬も終わり今月は「お彼岸」を迎えます。

お彼岸のお供えとして頭に浮かぶものに「ぼたもち」があります。

「ぼたもち」とは、まだ粒が残るぐらいに軽く搗(つ)いた餅に餡をまぶしたのですが、調べてみるとなかなかおもしろい食べ物です。

餅を完全に搗いたわけではないので「はんごろし」という物騒な名前が付いていたり、「おはぎ」ともいわれたりします。

「ぼたもち」と「おはぎ」の違いについては諸説ありますが、春のものを「ぼたもち」、秋のものを「おはぎ」とする説が有力なようです。

春には牡丹の花が咲き、それに似せて作られたのが「ぼたもち」。秋に咲く萩の花が小豆餡の粒のようであるから「おはぎ」。

では、夏や冬はどんな名前がついているのかというと、夏は「夜船(よふね)」、冬は「北窓(きたまど)」という名前があるそうです。

「ぼたもち」の餅はお正月の餅のように「ぺったん、ぺったん」と搗いた餅ではありません。ですから、周りの人にはいつ搗いたのかわからない。「着いたのがわからない」のは「夜中に岸に着く船」ということから、

言葉遊びをして「夜船」になったといわれています。

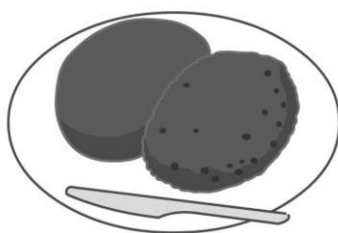
同じように「餅を」搗き知らずから「月知らず」へと転じて、月の見えない北側の窓ということで「北窓」になったそうです。

そして「ぼたもち」に使われる小豆は古くから人々に親しまれ、煮汁は解毒剤などの薬としても重宝されてきました。また、小豆は赤い色をしています。赤は「生命」を象徴する色として縁起がよいと、小豆は特別な食材でありました。

さらに小豆の赤い色には魔除けの効果があると信じられており、邪気を払う食べ物としてご先祖様にお供えされてきました。だからこそお彼岸や仏事に

お供えされるようになったのではないかと思われます。

とはいっても浄土真宗の教えに魔除けとは似つかわしくありません。ですから、みんなに親しまれてきた「ぼたもち」をご先祖様や仏様にお供えして、その「おいしさ」を分かち合いたいという素朴な思いからきているのではないのでしょうか。



◆行事案内

上宮寺の行事

3月8日(金)

春のお彼岸・永代経法要

時間：午前10時～

法要 引き続き 法話

(正午頃終了予定)

法話：林 祥眞師(一宮市禮讃寺)

※午後法要、お斎、呈茶はございません。

※軽食を用意いたします。

【上宮寺公式LINE】

法要の相談もLINEでできます。



◆話題あれこれ

○3月8日に「春のお彼岸・永代経法要」をおつとめします。ご都合つきましたら、ぜひご参詣ください。

○今年のお彼岸は3月17日(日)から23日(土)までとなります。八事の上宮寺墓地のお墓や納骨塔にお参りの際は、17日から20日まで交通規制がありますのでご注意ください。

○京都の東本願寺では4月1日(月)から4日(木)まで「春の法要」をつとめます。もし京都へ行かれる予定がありましたら、ぜひご参詣ください。

○4月16日(火)に、コロナ禍で長らく中止となっていました名古屋東照宮の舞楽祭が4年ぶりに行われます。今回の演目は「振鉾・延喜楽・万歳楽・納曾利・陵王・長慶子」です。住職は「万歳楽・陵王・長慶子」の笛を担当する予定です。時間は午後5時始まりで、会場は名古屋東照宮境内(中区丸の内)になります。雨天の場合は中止となります。

○能登半島地震の被災地にも春がやってきます。復興にむけての作業がより一層進むことを祈っています。

令和6年能登半島地震で被災された方々には心よりお見舞い申し上げます

【雑感】

姫路城に行く機会がありました。高校の修学旅行で訪れたことはあるのですが、残念ながらそのときの記憶はほとんどなし。あらためてその威風堂々とした姿に見とれてしまいました。姫路城には昨年大河ドラマ「どうする家康」でも登場した家康の孫娘・千姫が居たこと。大阪夏の陣で夫・豊臣秀頼が自害した後、徳川家臣の本多忠勝の息子・忠政と再婚しこの城で10年過ごしたそうです。戦国の世に翻弄されたお姫様のことを思うと、また違った感じでのこの姫路城がみえてきました。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547